

ジロドゥ 戯曲全集 第五卷

定価 七〇〇円

一九五八年三月二五月初版発行
一九六五年九月一日三版発行

訳者 ©

内村 直也
矢代 静一
安堂 信也
諏訪 正

発行者 草野 貞之

発行所 株式会社白水社
東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京(291)七八二一(代)
振替東京三三二二八

堀内印刷・大光堂製本

ジロドウ戯曲全集

第五卷

Titres originaux :
CANTIQUE DES CANTIQUES (1938)
SODOME ET GOMORRHE (1943)
et
ONDINE (1939)
Auteur :
JEAN GIRAUDOUX
Editeur :
BERNARD GRASSET

Original copyright by Jean-Pierre Giraudoux, Paris
Copyright in Japan by Hakusuisha, Tokio

曲全集 5

内村直也・鈴木力衛 共編



白水社

目次

カンテティック・デ・カンテティック……………矢代静一 七

ソドムとゴモラ……………諏訪 正訳 空

オンデーンヌ……………内村直也訳 一八

解説……………三三

カン
テ
ィ
ツ
ク
・
デ
・
カ
ン
テ
ィ
ツ
ク
一
幕

矢代静一
安堂信也 訳

登場人物

フロランス

会計係レシスターの女

宝石の精女

ジプシーの女

会長

ジエローム

ヴィクトール

支配人

運転手

給仕

ブーロニユの森か、セーヌ川のほとりのぜいたくな喫茶店キャッパの美しいテラス。のどかな午後四時頃。

第一景 会長、ヴィクトール、ついで、会計係の女

会長 どのテーブルがいいだろうね、ボーイさん？

ヴィクトール どこでもお好きな所へ。

会長 君の所のコーヒーは、おいしいかね？

ヴィクトール さあ、どうですか。私がやるのはビールだけですから。

会長 若いご婦人が見えたら、すぐここへ通してくれ給え。誰より愛らしいご婦人だ。

ヴィクトール ここでは、愛らしいご婦人は、好き勝手な所にお坐りになります。

ヴィクトール 遠ざかる。

会長 君！（ボーイ振り返る）こっちへ来たまえ。（ボーイ近づく。会長、優しく）いいのかね、

お客にそんな口のきき方をして！

ヴィクトール 私は、お客さんと同じように喋っているだけです。

会長 私が今日ここに来たのは、この世ならぬ、ひととき。もの静かなるバルコニー。夢うつつのテラス。それがほしいからだ。それがどうだ、こんなこととは。

ウィクトール　テラスは、おがくずでちゃんと模様をつけてあります(註1)。私の仕事はそこまでですからね。

会長　君たちボーイ諸君は、どうして、みんな、そんなに了見が狭いんだろう。……その手で私を黙らせようたって無駄だよ。私は、ヨーロッパで一番しつこい雄弁家という定評がある。……お客が君たちにとってなにか、それが、どうしていつまでもわからないんだ。喫茶店というものが、どんなに立派でも、たとえば、ここでもいい、結局は、あいびきの場所ではないってことがいつになったら、わかるんだろう、君たちの組合に。……まあ、だまってお聞き……あいびきの場所といっても、ボーイとお客のだ。お客は、なにをしに喫茶店にくるか。飲めばきまって胸のむかつくコーヒーのためか？　まあ静かに。いいかね、それは——君たちのためなんだよ。ボーイ諸君の顔を見に来るんだ。……君たちの顔ときたら、お世辞にも褒められないのに不思議だねえ。

ウィクトール　失礼ですが。

会長　話の腰を折ってはいけない。

会計係　(まるでバスの運転手のように注意深く高いカウンターに登って(註2))こちらがお話なさってらっしゃるんじゃないの。お客様は一般論をいっておいでなのよ。だいいち、あんただって別に、アポロの生れ変わりでもないんでしょ。で、「ボーイ諸君の顔を見に来る……」？　いや、有難う。その顔は、映画のスターたちの顔よりお客を引きつけるんだ。その証

抛に銀行家も、小説家も、將軍たちも、みんな、こうひとり言をいう。「曲馬団の女の子や、剣術の先生や、鉄工場の秘書と食事をするのは、もうたくさんだ。あの喫茶店へ行こう。あそこなら少くとも、ひとりになれる。イジドルと、ルネと、でなければ、ギュスターヴと二人きりに……」。君は、なんて名かね？

ヴィクトール　ヴィクトール……ですがね……

会計係　本当はシャルルっていうんですけれど、支配人もシャルルなので、この人に用をいいつけると……シャルルって呼んでいた頃には……いつも支配人のシャルルもふりかえってしまふんです。それでは、シャルルの仕事の權威がそこなわれますでしょう……そこで、この人をヴィクトールと呼ぶようになりましたの。

会長　いいじゃあないか、ヴィクトールというのは。勝利という意味だからね。だから、お客たちは、みんな来るんだ、ヴィクトール！

会計係　本当のヴィクトールは、車に轢かれましてね、もう六カ月になりますけれど……メゾン・ラフィットにあった別荘の火事のすぐあとでしたわ。……失礼しました、どうぞおつづけになって……「だから、お客たちは、みんな来るんだ、ヴィクトール……」。……

会長　有難う……だから、みんな来るんだ、ヴィクトール。そして、やっと、仕事や家庭や、国家の義務をはなれて、幸福と平和のわずかな幕間を過すことができるのだ、君たちのサーヴィスの悪いことはわかつているのね。君たちは、コップをふくナプキンで、おでこの

汗をふく。コーヒー茶碗に紅茶を入れたりする。トランプ好きには、チェスを持って行き、チェスの好きな人に、トランプを持って行く^(註3)。しかし、それでも、お客は、君たちが好きなのだ。彼らは家庭では仏頂面をする。それもみんな、君たちに会ったときに笑顔を見せたいからなのだ。また、彼らは善意を抱いてここに来る。この善意は、社会的変動や財政的危機のために、危く失いかけた貴重なものだ。その会見は、言葉を使わないだけに、かえって情熱的で、まさに、トリスタンとイズーのめぐり合いと同じなんだ、そうじゃありませんか？ そりゃ、お客は、君たちの名と、君たちが飲ませてくれるコーヒーの名を口にするだけだね。

会計係　ちよつと正確でないところもありますわ。コップは台所で拭くんです。ですから、おでこの汗を拭いたナプキンで、コップをまた拭いたとしたら、それは、そのボーイ個人の責任ですわ。けれど、トリスタンとイズーのたとえば、びったりですわね。ほんとうにその通りです。

ウィクトール　失礼ですが、私たちのことがよくお分りになってないようですわ。私たちはお客さまのことが……常連の方たちのことをいってるんですが……大好きなんです。というより尊敬さえしてます。それでなくて、どうして一生、こんな真似ができるもんですか。喉も渴かないのに、飲物をくばったり、お腹もすかないのに、サンドイッチを持って歩いたり。私たちだって、人並の才能には恵まれています。絵の展覧会も開きますし、中には学校出も

おります。私だって、なにを隠そう、水難救助の才能があるんです。そりゃ泳げませんが、溺れた者を救うのに必要なのは、落着きなんで、泳げるなんてことは二の次ですからね。なのに、絵を画く代りに、人を助ける代りに、私たちは、ここにこうしています。雑沓とどなり声としみだらけの空気を吸って。(註もそれはなぜでしょう、きまった時間になると、きまってご常連がお見えになるからなんです、まるで壁からすうっと抜け出してでもきたように、いつもの笑顔を浮べて。でもその顔だって、いつも立派だというわけではありませんよ。けれど、禿頭や、黄疽や、狼瘡も、見ようによってはいいものです。とにかく、お客様の顔が、そこにあります。……その顔が、気の抜けた飲物を芳醇な味に戻してくれるんです。その顔こそ、私たちの明け方のぶどう酒であり、真昼のブランデーであり、夕暮のカクテル(註も)なんです。……といっても私たちが、そのお客様の顔と合図を交わす手段といったら、ご用をうけたまわるときの短い言葉、ちょっとしたまなざし、愛想のよい笑顔、それだけです。けれど、私たちは、その顔が好きなのです、会長さん。だから、常連のいない喫茶店なんて、祭壇のない教会みたいなもんですよ。そうだよね、君。

会計係　聖人のいない教会(註も)、そういうつもりだったんでしょ。この人のたとえば、会長さんのほど、ぴったりじゃありませんわね。

ヴィクトール　聖人のいない？　その通り。聖人のいないっていうつもりでした。けれど、その聖人たちは、決して、名前をいつてくれません。もの悲しい日などには、私たちも、その

名前が知りたくなることもありますね。

会計係 私は一人知ってるわ。いいえ、二人。

ヴィクトール ですから、あなたも、あてずっぽうで、ご様子から、会長さんと呼びするほかないのです。けれど、あなたはたしかに会長さんでしょう。間違いようがありませんよ。ただ、どんな会社の、どんな委員会の会長さんか、うっかりすると、共和国大統領か、それは、わかりません(誰?)。間違っています、私の気持だけはわかっていただきたいと思いません。

会長 いや、いいんだ、ヴィクトール、それが、ちょうど、私の肩書だよ。……だが、それなら、たった今、なぜ私と話をしながらなかったんだらうね?

ヴィクトール それは、ご常連ではなかったからです、会長さん、でも今じゃ立派なご常連です。もう一度、さっきのお尋ねをくりかえしてごらん下さい。私たちが、夢うつつのバルコンを準備いたしますかどうか、すぐおわかりになります。

会長 どのテーブルがいいだらうね、ヴィクトール。

ヴィクトール 今、おいでの所はいけません、会長さん。これは喧嘩のテーブルです。二番へどうぞ。

会計係 殊にご婦人をお待ちならね。二番では、女の人たちは優しくなります。光のせいだって、財政検査官が説明してくれました。二番では、光が、女の人のかたまりになにに当りま

す。それで優しいんです。

会長 ああ、あんな木の下のテーブルは？

ウィクトール 九番ですか？ おすすめできませんね、九番は。あのテーブルは呪われているんです。

会計係 この近所で自殺する人があつて、きまつて、その前に、あの九番へ最後のラム酒を飲みに来るんですよ。

ウィクトール たいてい勘定は払って行きますがね。

会計係 ねえ、会長さん、あなたのお望みはわかつておりますのよ。私どもだって、そりゃただの会計ですけど、時には、あなたのような氣持になりますわ。なにもかもたやすく、簡単に運ぶテーブルがよろしいんでしょう？

ウィクトール そして、素晴らしくね。

会長 その通り。

会計係 自然が、その葉の先から根元まであなたの味方になり、野卑なものが、その髪の毛の先から爪先まで、ちっとも見当らないような？

ウィクトール 人生が、本来そうであるべきなのに、なかなかそうならないあのめぐみとくつろぎの場所になるような？

会計係 ご自分が若々しく、美しく思えるような？